

函嶺洞門の整備

かんれいどうもん



函嶺洞門

昭和6(1931)年竣工
延長100.9m 幅員6.3m
鉄筋コンクリート造

大正12(1923)年の関東大震災で国道1号は各地で土砂崩れや橋の崩落が発生するなど、大きな被害を受けました。

この復旧と併せて、県西土木事務所小田原土木センターの前身である小田原道路改良事務所が、道路を土砂災害から守る施設として昭和6(1931)年に函嶺洞門を造りました。

重要文化財としての函嶺洞門

函嶺洞門は同じ時代に造られた千歳橋、旭橋と共に自動車交通に対応した昭和初期の道路施設です。

箱根路の近代化の象徴的な施設として歴史的価値が認められ、平成27(2015)年に国から重要文化財として指定されました。



千歳橋

昭和5(1930)年竣工
橋長25.5m 幅員9.0m
鉄筋コンクリート造単アーチ橋



旭橋

昭和8(1933)年竣工
橋長39.5m 幅員10.0m
鉄筋コンクリート造単アーチ橋



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ